



10時40分から三重県の堀 智秋会員が「膝蓋上囊の解剖と触診」と題して講演を行った。公演後短い時間ではあったが、膝の触診のしかたや実際に触診の体験を行った。

午後から一般公開講座（特別講演）「頭部外傷と脊椎外傷」が三重県立総合医療センター、脳神経外科部長 亀井 勇介先生の講演が行われ、頭を打って気持ちが悪くなったとき（脳震盪など）は、競技や練習を中止して安静にし、病院の検査で大きな異常が無くても再度頭を打った（セカンドインパクト）際に脳の血管が損傷を起こし選手生命が絶たれたり死亡することがあるため、しばらくの間安静にすることを強調した。

14時35分から会員研究発表者の表彰が行われ、14時50分から閉会式があり、次年度主催県の静岡県鈴木 努会長より、次回は浜松で行われることを告げて幕を閉じた。

（学術部長 西村 武蔵）



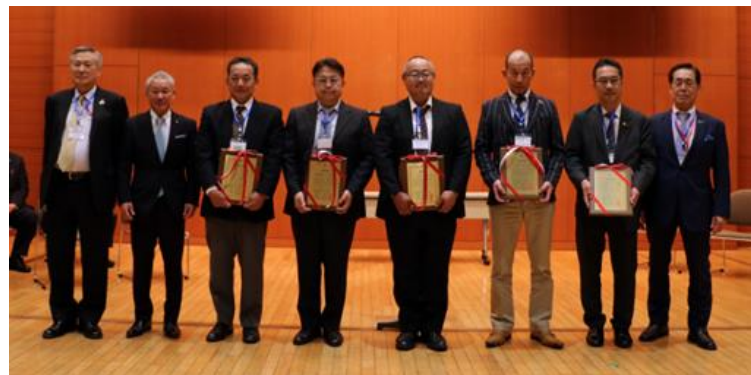
令和5年10月28日（土）29日（日）の両日、三重県津市のアスト津アストホールにて日整第56回東海学術大会三重大会が開催された。

1日目、18時から開会式が行われ、三重県の服部 和人副会長の開会の辞に続き、日整会長挨拶では長尾 淳彦会長欠席の為、森川 伸治副会長が挨拶を行った。

続いて、「学術教育部からのお願い」、①匠の技伝承プロジェクトの意義等について②エコーを柔整師の手にと題し、徳山 健司日整学術教育部長と篠 弘樹日整学術教育部員が講演を行い1日目を終了した。

2日目は、9時30分からA会場で会員研究発表が行われ、本会からは中島 正勝会員（豊橋支部）が「仙腸関節捻挫に足指の運動療法が有効であった一症例」を発表した。

同時刻、B会場ではワークショップが「橈骨遠位端骨折」を演題に行われ、富永 敬二日整学術教育部員が整復固定の実演を、篠 弘樹日整学術教育部員がエコーの実演を行い、参加者は班ごとに整復固定とエコーを実際に使った体験実習を行った。



愛知県国民医療推進協議会



11月16日（木）、愛知県国民医療推進協議会が名古屋ルーセントタワー16Fにて開催され、本会会長・両副会長が出席した。

「診療報酬等の大幅な増額を通して国民の健康福祉増進と日本経済の発展を」と題して愛知県医師会理事が趣旨説明をした。最後に医師会、歯科医師会、薬剤師会など多くの医療関係者出席のなか、森川会長が決議文を読み上げ盛会の内に終了した。

（副会長 石川 益郎）